



▲5つの銅貨/サントラ・シングル盤

3月、そろそろ春の足音が聞こえてくるころですが、出会いと別れの季節でもありますね。2019年10月号から書かせていただいた連載も終盤へと向かっています。連載中は、古いことを調べたり、そのころに思いを馳せたりと楽しい時間を過ごしていました。そして今も歌い手で現在進行形の自分の人生が、本当に不思議でなりません。私も生身の人間なので、プライベートではさまざまなことが起こるわけです。オマケに歌手として特別な才能を持っているとも思えないし、仕事をもらってくる営業能力も乏しい。ただ一つのこと、「最後まで好きな歌を唄っていたいなあ」と思うだけです。

このM-magazineの連載も巡り巡ったご縁の賜物でした。すべての糸を手繰るのは長い話になってしまうので途

中からになります。ボサノバライブを行う際に、ジャズもボサノバも得意なピアニスト重久義明さんが引き合わせてくれたギタリストが須古典明さんでした。須古さんの演奏が聴きたくて行ったお店が新横浜にあった「チャーリーズ・バー」（今は馬車道にあります）。飛び入りで唄わせてくれて、そのままスケジュールに入れてくれました。そこでピアニスト西郷正昭さんに出会い、西郷さんの「八百屋ジャズ」というジャズバンドで唄わせていただけることになりました。そして西郷さんから元住吉の「イダカカフェ」さんでのライブのお話をいただきました。そこで昨年末で連載をされたという神山昇さん、M-magazineを発行されている塚田親一さんに初めてお会いしたのをよく覚えています。「The Five Pennies」という曲のリクエストをいただいたのですがレパートリーになくて、うる覚えの感じだったので今も思いつかずと赤面～。その後、こうして連載につながってきました。どこの一つが欠けても今の連載は無かったです。ご縁の賜物という以外にないですね。ときどきですが後ろを振り返って見渡すと、もう音楽から離れた生き方をしている方や亡くなられた方がいる中で、今も現役の歌手やミュージシャンがいて、嬉しくなります。北九州の高校生だったころに、一緒に曲を作ってポップコンにエントリーし受賞できたときの「木戸や

すひる」さんは、昨年末のレコード大賞ではコーラスをやっていましたし、普段は「さだまさし」さんのツアーで忙しそうです。ヤマハ時代に出会ったミュージシャンの名前をお店のスケジュール表やコンサートガイドで見つけたときは、思わずニヤリとしてしまいます。歳を重ねても継続できているのは、きっとこれまで積み重ねた努力とご縁なんだろうなあ。よし！私もまだまだボケボケしないぞ～。まだまだ楽しみたいんですもん。そうそう！赤面した「The Five Pennies」ですが、古い映画「5つの銅貨」でDanny Kayeがベッドサイドでお嬢さんに唄うシーンが大好きです。



2005年12月14日、ジャズシンガーとして希望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をLP、CDでリリース。オーディオファン、ジャズファンから高く評価支持される。